

#### 四 驛站の管理

元代に廣く天下に棋布した驛站は如何なる制度によつて管理されたか。元史兵志站赤篇の總序の中に

其給驛傳、璽書。謂之鋪馬聖旨。遇軍務之急。則又以金字圓符爲信。銀字者次之。內則掌之天府。外則國人之爲長官者主之。其官有驛令。有提領。又置脫脫禾孫於關會之地。以司辨詰。皆總之於通政院及中書兵部。而站戶闕乏逃亡。則又以時僉補。且加賑卹焉。於是四方往來之使。止則有館舍。頓則有供張。饑渴則有飲食。而梯航畢達。海宇會同。元之天下。視前代所以爲極盛也。

と見える。この一節の由來する所は勿論經世大典站赤門の總序であつて、それには

其應給驛者。皆以璽書。而軍務大事之急者。又以金字圓符爲信。銀字者次之。其符信皆天府掌之。其出給在外者。皆國人之爲長官者主之。他官不得與也。馬數多寡。視官品高下。公事大小。止則有館舍。頓則有供帳。饑渴則有飲食。事畢則以符信歸諸所受之府。不敢三日稽也。祖宗之法。至今守之。其官爲驛令。小者皆設提領。又置脫脫禾孫於都會關要之地。以詰其姦僞。總之以通政院中書兵部。站戶有闕乏逃亡者。則以時而僉完。周卹之。我國家疆理之大。東漸西被。暨於朔南。凡在屬國。皆置驛傳。星羅棋布。脈絡通通。朝令夕至。聲聞畢達。此又總綱挈維之大機也。

とある。こゝに記された所に依ると、驛站の管理は中央では通政院或は中書兵部で司どり、所在の驛站には驛令或は提領の官を置いてその事務に従事させ、更に都會關要の地には脫脫禾孫を任置して、驛站を使用するものゝ姦僞